

第590号（平成27年8月5日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません。

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

今週の事務局からのお知らせはありません。

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 福岡市、博多港の次期港湾改訂計画原案まとめ
2. 国交省、新たな「社会資本整備重点計画（第4次）」の原案
3. 菊地港湾局長、下司技術参事官（国土交通省7月31日付人事）

=====

《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 福岡市、博多港の次期港湾改訂計画原案まとめ

福岡市は平成30年代前半を目標とする博多港の次期港湾改訂計画原案を市議会に報告した。日本の対アジア拠点港としてのみなとづくりの一環として、大型クルーズ船2隻が同時接岸できる港湾計画などを目指した内容になっている。同改訂原案は今後、国土交通省港湾局との協議、8月～9月に予定するパブリックコメントによる市民意見なども参考に港湾改訂計画案を策定し、年明けの28年1月頃に地方港湾審議会を開催する。同年3月開催予定の交通政策審議会港湾分科会に上程して計画決定する方針。

目標年次における港湾能力は、▽国際海上コンテナ取扱個数130万TEU（平成26年実績で91万TEU）、▽外国航路船舶乗降人員270万人（87万人）、▽外航クルーズ寄港回数400回99回）を目標とした港湾計画にしている。

こうした目標の実現に向けた港湾計画としては▽コンテナターミナルの機能強化として、アランドシティ地区に位置付けている水深15m岸壁（耐震）の実現、▽国際・国内ROROターミナルの機能強化として、国際RORO機能をアイランドシティ地区から箱崎埠頭に移転し、併せて船舶の大型化に対応したマイナス10m岸壁（耐震）を整備、▽クルーズ船受入環境の強化として、大型クルーズ船2隻の同時着岸と世界最大級のクルーズ船の受入を可能とする岸壁の延伸、など。

【港湾空港タイムス】

2. 国交省、新たな「社会資本整備重点計画（第4次）」の原案

国土交通省は7月22日、「社会資本整備審議会環境部会・交通政策審議会交通体系分科会環境部会」の第27回合同会議を開催した。高潮・高波、交通インフラなど国土交通分野における気候変動の影響や適応策について示した「国土交通省気候変動適応計画（案）」について審議した。同計画は今後、委員からの指摘を踏まえて修正し、政府が今夏の策定を目指している「適応計画」に反映する。

国交省適応計画では、気候変動の影響による被害を最小化する施策を的確な時期に計画的に講じる必要があるとし、従来実施している緩和策と適応策を両輪として取組みを進めるといった理念を提示。そして「不確実性を踏まえた順応的なマネジメント（PDCAサイクル）」、「ハード・ソフト両面からの総合的な対策」等といった施策推進にあたっての基本的な考え方7項目を掲げた。

【港湾空港タイムス】

3. 菊地港湾局長、下司技術参事官（国土交通省7月31日付人事）

国土交通省は7月31日付人事を発令した。大脇港湾局長が大臣官房技術総括審議官に就き、港湾局長には菊地技術参事官が就任した。技術参事官には下司関東地整副局長、関東地整副局長には高田産業港湾課長、その後任には水谷国際臨海開発研究センター研究主幹が就いた。松原官房審議官は運輸安全委員会事務局長。このほか守屋四国地整次長が中部地整副局長に、四国地整次長には菅沼国総研空港研究部長、丸山中国地整副局長は同局長、鈴木九州地整副局長も同局長に昇任した。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

※メルマガ配信先に変更がある場合は事務局までご連絡下さい。

#####